
町田市43万人のこれから

——人口減少・高齢化・財政リスクを、市民として小沢タケルが読み解く——

0. なぜ「人口」と「財政」の話から始めるのか

町田の話をするとき、
どうしても「道路が狭い」「保育園が足りない」「税金が高い」といった**“目の前の困りごと”**に意識が向きます。

ただ、その一つ一つを本気で考えようとする、
どうしても避けて通れない土台が2つあります。

- 町田に何人住んでいて、これから増えるのか・減るのか
- その人たちの暮らしを支えるためのお金（財政）が、今後どう変わるのか

この2つが分かっていると、

「もっと〇〇を増やしてほしい」
「△△は削るべきだ」

という議論が、現実の条件と噛み合わなくなってしまうからです。

だからこそ、まずは**「町田市43万人のこれから」**を、
一度“構造から”整理してみたいと思います。

1. いまの町田は「どんなサイズの、どんな構造のまち」か

1-1 人口43万0153人、東京都内でも上位の「郊外中核都市」

町田市の住民基本台帳によると、
2025年4月1日現在の人口は 430,153人、世帯数は 209,382世帯です。

東京都の中では、

- 23区
- 八王子市

に続く規模で、

「多摩エリア最大級の郊外中核都市」と言っていいボリューム感です。

1-2 中身を見ると、すでに「高齢化が進んだ都市」の顔

町田市がまとめた高齢化の資料(2020年1月1日時点)では、人口構成はこうなっています。

- 総人口:428,821人
- 生産年齢人口(15~64歳):260,524人
- 高齢者人口(65歳以上):115,225人

この時点で高齢化率は約**26.9%**。

2025年の最新データでもほぼ同水準で、**「4人に1人以上が高齢者」**という状態です。

町田=若いファミリーのまち

というイメージで語られることも多いですが、

数字で見ると**「すでに高齢社会の真ん中にある都市」**だと分かります。

2. これから人口はどうなるのか:2040年の町田を数字で見る

2-1 ピークは2021~2025年、その後は緩やかな減少へ

「町田市将来人口推計」(2024年1月公表)では、

2022~2060年までの人口が1年刻みで予測されています。

概要には、こう書かれています。

町田市の人口は、2021年から2025年の間にピークを迎え、その後減少を続けます。

2060年の人口は2021年と比較して約20%減となる見込みです。

もう少し具体的に見ると、

- 2020年:428,821人
- 2040年:388,924人(約9%減)
- 2060年:342,000人前後(約20%減)

というイメージです。

「一気に半分になる」ような急激な減り方ではないが、

確実に少しずつ減っていく、というのが町田の将来像です。

2-2 生産年齢人口は「2割減」、高齢者は「2割増」

同じ推計では、年齢構成の変化も示されています。

- 生産年齢人口(15～64歳)
 - 2020年:260,524人
 - 2040年:207,542人(約20%減)
- 高齢者人口(65歳以上)
 - 2020年:115,225人
 - 2040年:142,020人(約23%増)

その結果、2040年の高齢化率は**36.5%**。

計算上は、高齢者**1**人を生産年齢人口**1.5**人で支える構造になります。

人口は少し減る。

その中で「働く世代」は2割減り、「高齢者」は2割増える。

この組み合わせが、

これからの町田を考えるうえでの“前提条件”になります。

3. 財政は今どうなっているのか:「現状は健全」だが...

3-1 健全化判断比率:イエローカードからはほど遠い

町田市は毎年、「健全化判断比率・資金不足比率」を公表しています。

最新の令和5年度(2023年度)決算に基づく指標は以下の通りです。

- 実質赤字比率:－%(赤字なし)
- 連結実質赤字比率:－%(赤字なし)
- 実質公債費比率: **0.6%**(早期健全化基準:25%)
- 将来負担比率:－%(将来負担なしと判定)

市の説明では、

実質赤字比率・連結実質赤字比率・将来負担比率が「－%」なのは、

- 「赤字額がない」
- 「将来財政を圧迫する将来負担がない」

ことを示す、と明記されています。

ここだけ見れば、

「いまの町田の財政は、全国の中でもかなり健全な部類」

と言っている状態です。

3-2 それなのに、市が「財政悪化のリスク」を口にする理由

ところが、2025年度から始まった

「持続可能なまち、町田への調査研究」のページを開くと、かなり踏み込んだ言葉が並びます。

町田市は、生産年齢人口の減少、少子高齢化による税収減と社会保障費増加に伴い、財政悪化のリスクを抱えています。

「まちだ未来づくりビジョン2040」や「町田市未来都市研究2050」では、収支不足や赤字自治体化の懸念が指摘されています。

つまり、

- 「今の決算」はきれい
- しかし、「人口構造の変化を織り込んだ長期シミュレーション」では、収支不足・赤字化の懸念が見えている

からこそ、市はあえて

「持続可能なまち」に向けた調査研究を立ち上げざるを得ない、という状況です。

4. 「まちだ未来づくりビジョン2040」が示している方向性

4-1 「2040になりたい未来」と「なんだ かんた まちだ」

「まちだ未来づくりビジョン2040」は、2040年を見据えた町田市の基本構想・基本計画です。

基本構想部分「2040になりたい未来」では、

- 2040年の人口を40万人前後と想定し、

- まちの将来像（都市像）
- 行政経営の姿

を描いています。

そして、そのイメージを一言で表すキャッチコピーとして、

「なんだ かんだ まちだ」

というフレーズを掲げています。

私はこの言葉に、

- 課題もあるし、きれいごとだけではない
- それでも“なんだかんだ言いながら、このまちが好きだ”

という等身大の町田らしさが込められているように感じます。

4-2 ベッドタウンから「持続可能な都市」へ

先ほどの調査研究の説明とビジョン2040を重ねて読むと、市が目指している方向性は、かなりはっきり見えてきます。

- これまで：
 - 都心への通勤・通学に便利なベッドタウンとして発展
 - 住宅地と商業地が広がる一方、人口構造の変化が進行
- これから：
 - 生産年齢人口の減少／高齢者の増加／税収構造の変化を前提に
 - 単なるベッドタウンではなく、
 「住む・働く・学ぶ・楽しむ」が市内で循環する“持続可能な都市”を目指す

市自身が、

単なるベッドタウンから脱却し、持続可能な都市を目指す必要があります。

と公式に書いている点は、非常に重い一文だと感じています。

5. 町田が抱えている「構造的な課題」を4つに整理すると

ここまでの人口・財政・ビジョン・調査研究を、
市民として私なりに整理すると、
町田の構造的な課題は、おおよそ次の4つに集約できていると考えています。

5-1 人口構造の問題

- 総人口:43万人 → 2040年には約39万人
- 生産年齢人口:20%減少見込み
- 高齢者人口:23%増加、高齢化率36.5%へ

→ 働き手が減る一方で、支えるべき人は増える。

5-2 財政構造の問題

- 現在の健全化指標はきれい(赤字なし・公債費比率0.6%)
- しかし長期シミュレーションでは、
生産年齢人口の減少＋社会保障費増加により「収支不足・赤字化の懸念」が示されている

→ 今は大丈夫でも、“この先20年”をそのままの形で乗り切れるとは限らない。

5-3 都市構造・交通・土地利用の問題

- 多摩丘陵の地形、狭い生活道路、市街化調整区域
- 鉄道アクセスは良いが、丘陵地や団地エリアの移動のしづらさ
- どこに住まいを誘導し、どこに機能(医療・商業・公共施設)を集約し、どう交通で結ぶか

→ 「人口が減る」だけでなく、「人口が減るまちのインフラと生活圏をどう整理するか」が課題。

5-4 産業・税源・「稼ぐ力」の問題

- ベッドタウン依存からの脱却の必要性
- 商業・中小企業・農業・大学・観光など、潜在的な強みは多い
- それを「安定した税源」につなげていく仕組みづくりがまだ途上

→「住んでいるだけ」ではなく、「働き・学び・稼ぐ場としての町田」をどう育てるか。

6. よくある誤解と、私が感じる「現実的な見方」

ここで、よく聞く2つの極端な言い方について、
市の資料を読んだうえでの私の受け止めを書いておきます。

誤解①:「町田は人口が減るから、もうダメだ」

→ 事実として減るが、「どのくらい」「どういう構造で減るか」が大事。

- 町田の減り方は、**急激な“崩壊型”ではなく、緩やかな“縮小型”**です。
- その中で、高齢化が進むのは日本全体と同じ流れ。
- 問題は「減るからダメ」ではなく、***“減ることを前提に、どうまちを設計し直すか”***にあります。

誤解②:「財政が健全なら、心配いらない」

→ 今は健全でも、「今のままの構造で20年後も平気」とは書いていない。

- 健全化判断比率は安全圏だが、
- 市自身が「収支不足・赤字化の懸念」を前提に調査研究を始めている。

これは、「すぐに財政破綻する」という話ではなく、
「このまま何もしないと、じわじわ厳しくなる」と認めたうえで、
早めに手を打とうとしている、という意味だと私は理解しています。

7. 市民として今押さえておきたい「3つの視点」

最後に、選挙でも政治的な主張でもなく、
一市民として町田を考えるうえで、ここだけは共有しておきたい視点を3つに絞ります。

7-1 「43万人→約39万人・高齢化率36.5%」は“決められた未来”に近い

出生数や年齢構成のデータを見ると、
2040年にかけた人口・高齢化率の流れは、かなり高い確度で予測されています。

「増やす・減らす」を争うより、
「その前提で、どう暮らしを設計し直すか」にエネルギーを使う必要があると感じ
ます。

7-2 財政は「今が安全圏だからこそ、動ける時期」

- もしすでに赤字で借金まみれなら、打てる手は限られます。
- 町田は現時点では健全だからこそ、
「まだ余力があるうちに構造を見直す」ことができます。

これは、市民として見ても「今だからこそ真面目に議論できるタイミング」だと考えて
います。

7-3 「ベッドタウンから持続可能な都市へ」というキーワード

市が公式に、

単なるベッドタウンから脱却し、持続可能な都市を目指す必要があります。

と書いている以上、

- 交通・道路
- 子ども・子育て
- 高齢社会・福祉
- 産業・農業・雇用

といった個別テーマも、
「持続可能な都市づくり」という大きな枠の中で見ていく必要があると感じます。

8. おわりに

「このまちのことを、本気で勉強している市民がいる」と思われたい

このレポートは、

- 町田市の人口・世帯統計
- 将来人口推計報告書

- まちだ未来づくりビジョン2040
- 持続可能なまち、町田への調査研究
- 健全化判断比率・決算資料

といった公式の数字と文書を読み込んだうえで、
私・小沢タケルが**市民の立場から整理した「町田の現在地とこれから」**です。

「なんとなく不安」や「なんとなく大丈夫」のレベルではなく、
一度、具体的な数字と構造で町田を見てみる。

そのうえで、

- 子育てのこと
- 高齢者福祉のこと
- 道路・交通のこと
- 働く場・産業のこと

を、それぞれ別のレポートで掘り下げていく。
その**“第1章”**として、この文章を書きました。

町田に生まれ、町田で育ち、町田で暮らす一人の市民として、
小沢タケルはこれからも、市の資料を読み、現場を歩き、市民の声を聞きながら、

「小沢タケルの市民レポート」として、
町田の課題と可能性を一つずつ、冷静に・具体的に言葉にしていく。

この文章が、

「この人は、町田市のことを感情ではなく、
データと構造でちゃんと勉強しているな」

と感じてもらえるきっかけになり、
あなた自身が「町田市43万人のこれから」を考えるヒントになれば、うれしく思います。

